

食と花で広がる地域の輪

昭和40年に設立以来、今年で40周年を迎えた北24条商店街振興組合。同組合が北区料飲店協会や地域の町内会とともに実行委員会を組織して取り組んでいるのは、食と花をテーマにしたまちづくり活動「スローライフ・イン・24」です。

その活動の一つ「花フェスタ24」では、街角を花のプランターで飾るとともに、歩道上の駐輪防止を呼び掛ける川柳の看板を立てるなどの工夫を凝らしました。8月11日、12日に開催した「夏祭りノースロード24フェスタ」の会場には「生ごみ」「プラスチックごみ」など6種類のごみ箱を設置し、ごみの分別を徹底しました。さらに来年の「花フェスタ24」の花植えに使用するためにこの祭りで出た「生ごみ」で堆肥を作る試みを始め、注目を集めています。また、9月17日の「スローライフ・イン・24収穫祭」には*札幌黄を使った玉ネギパンが出品され地産地消を実践し、肥料袋による野菜作りやガーデニングコンテストなどの表彰式が行われました。参加した人たちはジンギスカンを囲んで食と花のまちづくりを楽しみました。



小泉昭信さん

「食に花を加えたテーマにしたり、いろいろなアイデアを取り入れたりした結果、イベントの幅が広がり、食のリサイクルが見えてきました」と、同組合理事長の小泉昭信さん。「地域の団体が協力してまちの活性化に取り組むことで団結力が強まりました。それに企画から加わってくれた学生の皆さんの若い力は頼もしいですね」と、団体の連携による相乗効果を実感しているそうです。

※軟らかくて味覚のよい在来種の玉ネギ



上) 札幌サンプラザ前の特設ステージ
中) ごみ分別の手助けをするスタッフ
下) 生ごみは深さ1.5メートルの穴へ

ふれあいをふるさとに

設立して3年目の新川さんよこ商工振興会も地域とともに歩もうと意欲的な動きを見せています。同会では「地域の交流を深めること」と「次世代を担う子どもたちのふるさと意識を育てること」を目的に「新川さんよこふれあい夏まつり」を8月13日に初めて開催しました。ステージには地元で活動するサークルや新川児童会館に通う子どもたちなどが出演し、歌や踊りで祭りを盛り上げました。「人と人とのつながりを大切にしたいと思い、この夏祭りの名称に「ふれあい」という言葉を入れました。来年はより一段と地元密着型のイベントにする計画を立てているんですよ」と話す同会会長の野本洋二さんからは、まちづくりに対する意気込みがひしひしと伝わってきます。



野本洋二さん

（この部分のテキストは上記の重複部分と一致するため省略）

北区には、ほかにたくさんのお店街があり、それぞれ地域に根ざした祭りやイベントなどに取組んでいます。地域に住む人たちの語りにより活気あふれる商店街。そしてまたその商店街が地域を明るく照らします。町内会と手を合せて地域のまちづくりを支える商店街の人たちに、会いに行ってみませんか？



上) ジャガイモパター競技に挑戦
下) 手話を交えて歌う子どもたち